



投網の様子

# かわはく No.53

## CONTENTS

開催案内 平成27年度特別展「魚と人の知恵比べ～魚の生態と伝統漁法～」	2
スロープ展示のご案内 特別展サテライト展示「荒川のまつり」	3
春期企画展「河川改修の歴史と人々の暮らし」開催報告	4
2015年国際土壌年記念巡回展「土ってなんだろう？」のご案内	5
珍種見つかると？	6
かわはくGWまつり開催報告	6
特集コラム：シリーズ堤防の話 第1回「高麗川の霞堤」	7
着任しました 二川統括マネージャーより	7



開催案内：平成27年度特別展

# 魚と人の知恵くらべ

## ～魚の生態と伝統漁法～

埼玉県は県土に占める河川の面積割合が日本一であり、海と面していないため、川で捕れる魚は貴重なタンパク源でした。川に棲む魚を捕るためには、魚の生態や川の環境を熟知する必要がありますが、荒川をはじめとした河川において様々な漁労が営まれてきました。しかし河川環境の変化により漁労で生計を立てる者はいなくなっているのが現状です。

今回の特別展では、「魚の人の知恵くらべ」という視点から、荒川流域の各地で親しまれていた魚類と、罾や網などの漁具や伝統漁法を紹介します。また、川魚の食文化や鯰絵やウナギ絵馬などの信仰についても取り上げます。

開催期間 | 平成27年7月18日(土)～平成27年8月31日(月)

会場 | 埼玉県立川の博物館 第二展示室・リバーホール

### みどころ(展示構成)

#### 多彩な漁具・漁法

荒川の伝統漁法分布図をもとに、荒川流域の各地に分布する罾や網、釣竿などの漁具をおよそ20点展示します。漁業対象となった魚類のはく製も併せて紹介し、魚の生態に合わせた漁が営まれてきたことを明らかにします。

#### 川魚の文化

漁で得られた川魚は、人々の貴重なタンパク源となってきました。特にナマズは、そのヘルシーさから近年も注目され、まちおこしの材料として

も注目されています。ナマズ料理やアユ料理を中心に、現在もよく食されている川魚料理についてレプリカや写真パネルで紹介합니다。

#### 川魚への信仰

漁が盛んに行われていたところでは、魚への信仰も見られます。中には、ウナギを神様として祀り、食さない地域もあります。このような魚への信仰を鯰絵やウナギ絵馬などとともに紹介します。

(研究交流部 藤田宏之)

### イベント情報

#### ①お魚ストラップをつくろう

会場：川の博物館レストハウスまたは本館ワークショップ

実施日：8月9日(日) 13:30～15:30  
(材料がなくなり次第終了します)

費用：100円(材料費)

#### ②映画上映会

会場：ふれあいホール

実施日：8月15日(土) 13:30～  
「戸田の伝統漁撈」戸田市教育委員会提供  
「有明海の干潟漁」

#### ③伝統漁法体験

会場：荒川かわせみ河原(寄居町)

実施日：8月20日(木) ①10:30～12:00  
②14:00～15:30

定員：各20名

費用：500円(保険料)

#### ④罾に入ってみよう

(罾の大型模型の中に入り魚の気持ちを体感)

会場：リバーホール

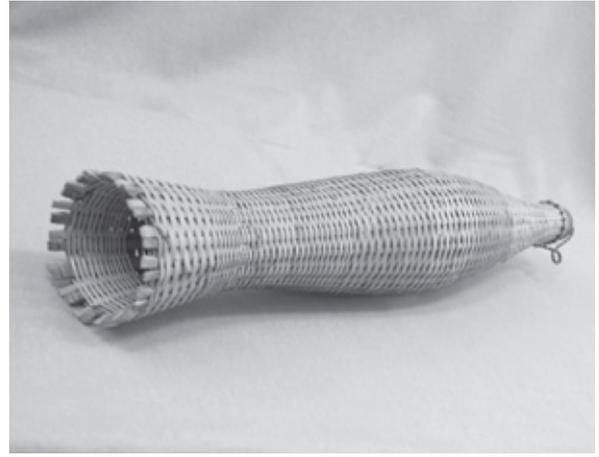
会期：特別展開催期間中随時



荒川での投網



フナ (ギンブナ)



ウナギ釜<sup>うなぎ</sup>



ナマズたたき揚げ (吉川市)



ニホンウナギ

---

---

## スロープ展示のご案内

---

---

# 特別展サテライト展示 「荒川のまつり」

開催期間：平成27年6月30日(火)～9月6日(日)

---

---

川漁師が水難除けの神様として信仰していた水神のご神体を基にして創建した玉淀水天宮祭 (寄居町)、伝統ある秩父川瀬祭 (秩父市) など、荒川流域のお祭りを紹介します。



秩父川瀬祭 (秩父市)

撮影：朝香義和氏 (荒川を撮る会)



河原沢のオヒナゲエ (小鹿野町)

撮影：岩田省三氏 (荒川を撮る会)



## 春期企画展 「河川改修の歴史と人々の暮らし」 開催報告

会 期：平成27年3月14日(土)～5月10日(日)

5月10日(日)まで、春期企画展「河川改修の歴史と人々の暮らし」を開催しました。

テーマは大きく分けて2つ。1点目は、埼玉県内、特に荒川流域の河川改修のお話。2つ目は、洪水等の災害に対する住民の備え。この2点を、今回の企画展の大きなテーマとしました。

また、今回の企画展の大きなコンセプトとして、河川改修の歴史や洪水の恐ろしさに関して、来館者の皆さんにより身近に感じてもらえるように、目や手から「体感できる展示」を心がけました。

例えば、展示物として、「一級河川 荒川の長さ」、「自然の荒川の長さ」、「人間の手が加えられた荒川の長さ」、「隅田川の長さ」、「荒川放水路の長さ」、「一級河川 元荒川の長さ」を、ハンドルを回すことによって出てくる紙の長で見比べてもらう展示や、吉見町に所在する巨大な水塚の実物大写真(縦5m×横4m)、埼玉県の白地図に現在の荒川の流路を予想して描いてもらうコーナー等を用意しました。

また、高さ約18mになる、本館建物の構造を利用し、リバーホールには、洪水時の水位や、整備された堤防の高さ等を記したバナーを吊るしました。また展望台にも、荒川の洪水の観測史上最高水位を再現し、リバーホールに設置されているエレベーターを利用して展望台がある本館3階まで移動してもらうことで、洪水時の水位を体感していただけるようにしました。

「河川改修」という、意外と生活と密接な関係にありながらも、なかなか身近なモノとして捉えにくいテーマを、これら展示物を通して、来館者の皆様に少しでも理解していただけたのではないかと思います。(研究交流部 羽田 武朗)

### 関連イベント報告

#### ○「川がつくった地形を見に行こうー埼玉の砂丘編ー」 3月29日(日)

関連イベントの第一弾として、春日部市内に点在している河畔砂丘や古隅田川の旧流路等の見学を行いました。参加者の皆様と一緒に、現地で河畔砂丘が出来る仕組みを学び、そして住宅地に残されたかつての堤防の跡(廃堤)を見学しました。

#### ○「川を知るウォーキング」(全3回)

4月12日(日)・4月25日(土)・5月10日(日)

企画展関連イベントとして、埼玉県内の河川を

文字通り「歩いて学ぶ」イベントを全3回実施しました。1回目は、荒川の瀬替えの場所、熊谷市久下周辺の元荒川を、2回目は、荒川放水路開削に伴う一連の河川改修工事を見学するために、新・旧岩淵水門(東京都北区志茂)周辺を、3回目は江戸時代の優れた土木技術の結晶、見沼代用水と見沼通船堀の見学を行いました。元荒川の見学の際には、約40年前まで元荒川沿いに暮らしていた当館ボランティア小杉勝雄さんが、自作の資料を使用しながら、当時の思い出話等をしてくれ、参加者の皆様により深く、元荒川の歴史等を知ってもらえたのではないかと思います(写真下)。

#### ○「展示解説 かわはくで荒川について改めて学んでみませんか？」 会期中の土・日・祝日

会期中に展示解説として、当館ボランティアスタッフの協力の下、荒川大模型173を使用して展示解説を行いました。長く話を聞いてくれた人は、約2時間半も聞いてくださり、改めて「川」を愛する人々の多さを実感したイベントとなりました。

今回の展示に限らず、今後とも来館者の皆様とともに、「川を知る」展示・イベントを企画してまいりたいと思います。



展示室の様子



川を知るウォーキング「元荒川を歩く」実施風景



# 2015年国際土壌年記念巡回展 「土ってなんだろう？」のご案内

2015年は国連が定めた「国際土壌年」です。これを機に、土について世界の人々によく知って、考えてほしいという願いがこめられています。埼玉県立川の博物館は、一般社団法人日本土壌肥料学会および日本ペドロジー学会と共催で巡回展「土ってなんだろう？」を開催しています。

展示の内容を少し紹介しましょう。

## ○土の中の小さな生きものたち

スプーン一杯の土の中に、どれだけの生き物がいるのでしょうか？そこには微生物（目には見えない、とても小さな生き物）が数億か数十億。他にもミミズ、ダンゴムシ、ダニ、トビムシ、クマムシなど、さまざまな生き物がたくさんいます。生き物たちを標本・映像・写真で紹介します。

## ○土のできかた

生きものがたくさんいる土。それは石などとは全くことなるものですが、土はいったいどのようにできるのでしょうか？土ができてくる様子や、粘土の正体を、モノリス（土壌の実物標本）などで解説します。

## ○さまざまな土

土は土のもとになる材料、気候、生きものなどの影響を受けてできるので、土にもさまざまな種類があります。日本の土、世界の土をモノリスと写真で紹介します。

## ○ふかふかの土とかたい土～土壌団粒の秘密～

やわらかい土やかたい土があるのはどうしてでしょうか？そのヒミツは土壌団粒にあります。団粒とはどんなものなのか、解説や体験コーナーでときあかします。

## ○土と世界のつながり

土はやきものになるほか、風土として私たちの文化や意識にも深く関わります。また身の回りの自然（水や空気）とのつながりもあります。その関係を見せていきます。

長い時間をかけてできる土ですが、その土が私たちが食べる作物を含む植物を育て、ひいては動物を育てるのです。地味だけどすごい土の力や不思議を感じて、土ってなんだろう？の答えを少しでもみつけて頂ければと思います。かわはくでの展示は終了しましたが、これから各地で展示がありますので、是非、お近くの会場にお越しください。

(研究交流部 森 圭子)

## 巡回展示場所と期間

- ◎埼玉県立川の博物館（5月30日～6月21日）
- ◎東京農工大学科学博物館（6月27日～7月11日）
- 大昆虫展（スカイツリーソラマチで開催）  
（7月18日～8月25日）
- 消費者の部屋（8月17日～21日）
- ◎京都大学総合博物館（9月2日～9月13日）
- ◎大阪市立自然史博物館（9月19日～10月18日）
- ◎兵庫県立人と自然の博物館  
（10月31日～11月29日）
- エコプロダクツ展（東京ビッグサイトにて）  
（12月10日～12日）
- ◎ミュージアムパーク茨城県自然博物館  
（12月19日～2016年1月24日）
- は一部を展示予定
- ◎はフルサイズで展示予定



かわはく会場にて



## 珍種見つかる？

川の博物館の敷地に生えているサクラの木からナシアシプトハバチの幼虫が見つかりました。幼虫の色は黄色で背中に太く黒い筋を持っています。カタツムリのような形に丸まり大きさは500円硬貨ほどもあります。ハバチ類はハチの仲間なのに幼虫時代に植物の葉を食べるといった変わった生態を持っています。埼玉県内での正式な記録としては寄居町末野の少林寺で1980年に見つかって以

来、実に35年ぶりとなります。

さらに寄居町でカトウツケオグモという変わった名前を持つクモを見つけました。このクモも埼玉県での記録は5-6例目という謎に包まれているクモです。

今年は今まであまり目にしたことのない変わった生きものが見つかりましたので、ほかにも思いがけないものが見つかるのでは？とちょっぴり期待しています。（研究交流部 石井克彦）



葉を食べるナシアシプトハバチ



丸まったナシアシプトハバチ



カトウツケオグモ

## かわはくGWまつり開催報告

かわはくGWまつりが5月2日(土)～5月6日(水)の5日間行われました。

和太鼓の演奏体験や、模造紙を使って兜や折り紙でカワシロウなどを作る折り紙体験には、子どもたちを中心に500人近い人たちに参加いただき、当館学芸員やボランティアさんによるイベントも日替わりで行いました。

こどもの日の5日には、かわはくでは初めて、チェーンソーで丸太を輪切りにしてみる体験コーナーを行いました。チェーンソーを駆使して一本の丸太から連なった鎖の形を切り出すチェーンソーアートの後に行われた体験コーナーは、朝から待っていてくれた男の子などで、20人の定員がすぐにいっぱいになる大盛況。エンジンがうなりをあげるチェーンソーを手にした子どもたちは「大きい音だった」「手がブルブルする」などと興

奮気味に感想を話してくれました。

7月26日(日)には「かわはく夏まつり」、9月20日(日)～9月23日(水)には「シルバーウィークまつり」、そして11月14日(土)には「かわはく秋まつり」を開催する予定です。面白いイベントを企画していますのでお楽しみに！

(広報担当 若目田葉子)



チェーンソー体験の様子



和太鼓演奏体験の様子



折り紙体験の様子



◆ 特集コラム ◆  
シリーズ堤防の話

第1回

「高麗川の霞堤」

今号から、3回にわたって特集コラム「シリーズ堤防の話」を展開します。

まず、皆さんにお聞きしたいことがあります。

「皆さんが頭に思い浮かべる川の姿は、どんな様子の川ですか？」

このような質問をすると、多くの方は、川の右岸・左岸両岸に、切れ間なく堤防が整備された川の姿を思い浮かべるのではないかと思います。

まず、この連続した堤防自体がそもそも「連続堤」と呼ばれるタイプの堤防で、様々な種類に分類される「堤防」の1つです。

そして、この連続堤の大半は、必ずしも昔からあった堤防というわけではなく、その多くは近代以降の河川改修工事の中で整備されてきた堤防です。

一方、堤防の中には「霞堤」と呼ばれる、堤防の途中にわざと切れ目を設けた不連続の堤防もあります。このタイプの堤防は、平常時は堤防の切れ目を利用して、堤内地から容易に排水を行うことができます（連続堤の場合は水門等の整備が必要となります）。また、洪水時には、同じく堤防の切れ目から、今度は堤内地内に予め想定しておいた遊水地へと増水した水を招き入れ、洪水による堤防の決壊を防ぎます。

埼玉県内においても、この霞堤が今でも壊され

ずに残っている場所があり、今回はその中から高麗川左岸に残る霞堤を紹介したいと思います。

写真中央の高まりが霞堤で、この霞堤によって守られる形で、自然堤防上に集落が築かれています（写真左側）。また、写真右側の耕作地（後背湿地）が、洪水時には遊水池としての機能を果たしていたと考えられます。

この高麗川左岸の霞堤は今でも壊されずに残されていますが、現在、周辺の集落を洪水被害から守ってくれているのは、この「霞堤」ではなく、高麗川の両岸に整備された、幅も高さも一回りも、二回りも大きい「連続堤」です。

（研究交流部 羽田武朗）



高麗川左岸に残る霞堤（坂戸市戸口）

着任しました 二川統括マネージャーより

はじめまして…

4月1日着任いたしました、かわはくの統括マネージャー、二川真一郎です。7年前指定管理者制度でご指名を頂いた乃村工藝社という会社から参りました。

サラリーマン人生38年では主に商業施設（百貨店・専門店・複合商業施設）の環境や店作りを手掛けてきました。文化施設（博物館・美術館・資料館）の経験は殆どなく、戸惑いの連続でしたが、3か月経ちようやく状況が分かってきました。特に今までは顧客（クライアント）から依頼された事を提供してきましたが事業者側からお客をお招きするのは初めてでした。最初はお客から質問されるとドギマギしていましたが、最近では笑顔で対応出来る様になりました。日々楽しく仕事が来ています。

かわはくに勤務して良かった事と困ったことを紹介します。良かった事は、通勤が楽になっ

た事。私、東武東上線の柳瀬川駅（志木市）から最寄りの鉢形駅まで電車で通っていますが、朝は下りで帰りは上り。ガラガラ電車でゆったりと！時間は自宅からかわはくまで1時間40分ほど掛りますが…そして自然に囲まれた環境！

困ったことは、俗に言う体内時計ならぬ体内曜日！？人生生まれてから64年（結構歳とってます！？）法定祝日で生きてきましたが当館は月曜休館で基本休み。土日、祝日は稼ぎ時で出勤。休みがバラバラです。正直、今日は何曜日？？そしてもう一つ困ったのは、38年間サラリーマンの営業でしたので常にスーツ姿だったのが、何を着たらいいの？基本はジャケット・スラックスです。おまけにうれしくもあり大変なのは、鉢形駅から川の博物館まで一生懸命歩いて15分！かわはくの敷地は広くて、毎日万歩計で8,000歩～10,000歩。先日18,840歩の記録達成！！お蔭で若干肥満が今やほっそりとなりました。宜しく願い致します。

（統括マネージャー 二川真一郎）

**8月**

**7/18/土~8/31/月**  
特別展「魚と人の知恵くらべ〜魚の生態と伝統漁法」

**6/30/火~9/6/日**  
スロープ展「特別展サテライト展示・荒川のまつり」

**1/土** かわはくであそぼう・まなぼう かわはく開館・水の日記念「利き水体験」  
時間：10：00～12：00 13：00～15：00  
費用：無料  
内容：利き水などをしながら、水の性質や大切さを学びます。

**1/土** かわはく体験教室「魚の体を魚拓で観察」  
時間：13：30～15：30  
費用：200円（保険料）  
定員：25名 ☎  
内容：魚拓をとって、魚の体のつくりを勉強します。

**9/日** 特別展開連イベント お魚ストラップをつくらう  
時間：13：30～13：50  
費用：100円（材料費）  
定員：なし（材料がなくなり次第終了）  
内容：お魚ストラップをつくります。

**15/土** 特別展開連イベント 映画会「戸田の伝統漁撈」<sup>ひのとうぎょうろう</sup>「有明海の干潟漁」  
時間：13：30～  
費用：無料  
定員：各回50名  
内容：荒川下流で行われていた伝統漁法を紹介する「戸田の伝統漁撈」と特徴的な漁が行われている有明海の様々な漁を紹介する「有明海の干潟漁」を上映します。

**16/日** かわはく研究室〜川・自然・歴史〜「荒川博士になろう！」  
場所：荒川大模型173  
定員：各回10～15名ほど（複数回実施予定です。時間についてはお問い合わせください。）  
内容：荒川大模型173を使って、一回30分ほどで荒川についてのお話をします。

**21/金** 特別展開連イベント「伝統漁法体験」  
時間：10：30～12：00 14：00～15：30  
場所：かわせみ河原（集合・解散はかわせみ河原）  
費用：500円（保険料）  
定員：各回20名 ☎  
内容：漁協の方を講師に招いて、荒川で行われていた昔ながらの漁法（投網など）を体験します。

**7/18/土  
8/31/月** 特別展開連イベント 釜<sup>かま</sup>に入ってみよう  
時間：特別展開催中随時  
場所：リバーホール  
費用：無料  
内容：コイやフナを捕るための漁具である釜の大型模型に入って、漁具の構造やしくみを学びます。特別展開催中は展示しているのでいつでも体験できます。

**9月**

**9/9/水~11/29/日**  
スロープ展「電子顕微鏡の世界」

**9/19/土~11/15/日**  
企画展「地面の下をのぞいてみよう  
〜埼玉の地下に潜む自然・歴史〜（仮）」

**5/土** かわはく体験教室「砂金探り教室」  
時間：10：00～12：00  
場所：講座室、かわせみ河原（集合・解散は講座室）  
費用：100円（保険料）  
定員：20名 ☎  
内容：かつては砂金が多く採れた荒川で、砂金の採集にチャレンジします。運が良ければ砂金がとれるかもしれません。

**20/日** かわはく研究室〜川・自然・歴史〜  
「田んぼの小さな生きものを観察しよう」  
場所：荒川情報局もしくはリバーホール  
定員：随時5名ほど（時間についてはお問い合わせください。）  
内容：ミジンコなど田んぼの小さな生きものを観察し、解説します。

**20/日  
23/水・祝** かわはくシルバーウィークまつり  
時間：10：00～16：00  
費用：各イベントごとに異なります。  
内容：日替わりでイベントを開催します。

**27/日** かわはくであそぼう・まなぼう  
「お月見体験・月よりダンゴ」  
時間：13：30～15：30  
費用：無料  
内容：かわはく周辺に伝わる、お月見の風習の体験をします。

**11月**

**7/土** かわはく体験教室  
「はちみつの中の花粉を探そう」  
時間：13：30～15：30  
費用：200円（保険料）  
定員：20名 ☎  
内容：はちみつの中の花粉を顕微鏡をつかって観察します。

**14/土** かわはくであそぼう・まなぼう「木の実あそび」  
時間：10：00～12：00 13：00～15：00  
費用：無料  
内容：どんぐりコマやどんぐりヤジロヘエつくりを体験します。

**14/土** かわはく秋まつり  
時間：10：00～16：00  
内容：一日たのしく遊べるイベントを実施します。

**15/日** かわはく研究室〜川・自然・歴史〜「土のふしぎ」  
場所：荒川情報局  
定員：随時5名ほど（時間についてはお問い合わせください。）  
内容：土のはたらきを知るデモンストレーション実験を行います。

**10月**

**18/日** かわはく研究室〜川・自然・歴史〜  
「川のはたらきを知ろう！」  
場所：砂の広場  
定員：随時10～15名ほど（時間についてはお問い合わせください。）  
内容：流水実験をしながら、川のしくみについて学びます。

**24/土  
25/日  
31/土** かわはくであそぼう・まなぼう 「かわはくでハロウィン」  
時間：10：00～16：00 ※材料がなくなり次第終了  
費用：無料  
内容：自然の素材を使って仮装してみます。写真撮影OKで、参加された方にはオリジナル缶バッジをプレゼントします。仮装して来館した方にはステキなプレゼントを差し上げます。

**24/土  
31/土** かわはくハロウィンウィーク  
時間：終日  
内容：ハロウィンのかざりつけをお楽しみください。ミニイベントも実施予定です。

**25/日** 企画展開連イベント兼かわはく体験教室「橋立鍾乳洞の見学」  
時間：10：00～15：00（予定）  
集合：秩父鉄道浦山口駅  
費用：100円（材料費）※別途入場料がかかります。  
定員：20名 ☎  
内容：橋立鍾乳洞を、解説を交えながら見学します。

### かわはくからお知らせ

川の博物館は2015年12月から3月（予定）まで改修工事のため休館いたします。  
なお、休館中も館外イベントや講座、共催展示、出張授業等の普及活動については実施いたしますのでご利用ください。

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。③定員になり次第締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

■編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地  
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332  
Eメール/web-master@river-museum.jp/

彩の国  
埼玉県

2015年7月22日発行

